鳥取県立中央病院
広報誌
赤れんがNews
第2号
2021年1月
発行：鳥取県立中央病院

新年のご挨拶

鳥取県立中央病院　病院長　廣　岡　保　明

新年おめでとうございます。皆様にはコロナ禍でつらい日々の中、マスク、手洗い、換気に注意し、3密を避け、人との距離をとるなど、感染予防に最大限の注意を払って、忍耐強く、そして心静かに年末年始をお過ごしになられたかと思います。そのような中、当院は皆様の健康を守る東部圏域の砦として、新型コロナウイルス感染症のみならずコロナ以外の疾病（がん、生活習慣病、等々）にも全力で立ち向かっております。欧米でワクチンが実用化され、希望の光がうっすらと見えてきました。皆様のご協力に、この場をお借りし心より感謝申し上げます。

がんゲノム医療が始まりました　～がん治療を諦めない～

がんは遺伝子の異常によって起こる病気です。そこでがんに関連する数百種類の遺伝子を網羅的に調べて（がん遺伝子パネル検査）、患者さんの治療や診断に役立てる医療を「がんゲノム医療」と言います。

呼吸器内科　澄川崇

Q. がん遺伝子パネル検査は誰でも受けられますか？

A. ①標準治療がない原発不明がんや希少がん、②標準治療が終了、又は終了が見込まれる固形がん(血液のがん以外)の方が対象になります。

Q. がん遺伝子パネル検査を受けると良いことがあるのですか？

A. 検査で異常がみつかった場合、その遺伝子変異に対応した薬があれば保険診療または臨床試験などでの使用を検討します。

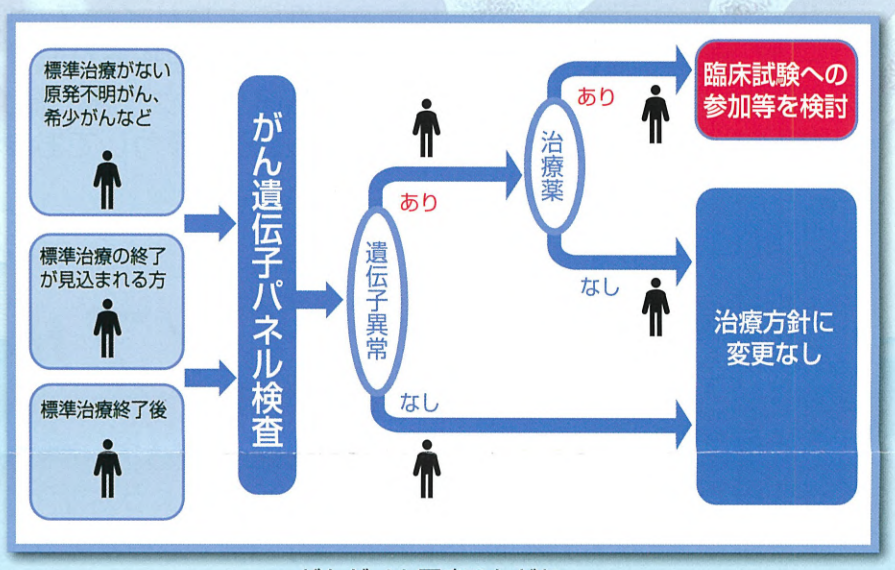
Q. どのくらいの確率で治療薬が見つかりますか？

A. 約10%と言われています。

Q. 保険診療で行えますか？

A. 検査は保険診療で行うことが可能です。検査費用は3割負担で約16万8000円となります。(2021年1月時点)。

ゲノム医療は新たな治療の可能性を示してくれる医療です。ただし、誰でも受けられるわけではなく、まずは担当医や当院の「がん相談支援センター」までご相談下さい。



がんゲノム医療のながれ

一次脳卒中センターに認定されました

神経内視鏡手術の様子

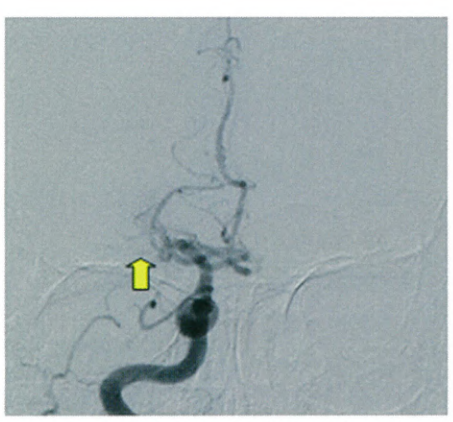
脳卒中とは？

脳卒中は脳の血管に起因し急性に生じる病気の総称で、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血などのことをいいます。誰にもおこる可能性があり、寝たきりの原因の第一位です。発症後は迅速な対応が必要な病気です。

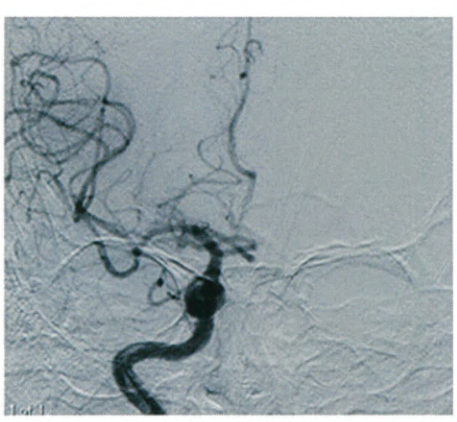
脳卒中センター長　田渕貞治

一次脳卒中センター(Primary stroke center: PSC)

当院は、2019年9月より鳥取県東部唯一の一次脳卒中センターとして正式に認定されました。患者さんが当院へ搬入後は、速やかに診療（脳梗塞に対するt-PA静注療法など）が可能で、毎日24時間対応致しております。



中大脳動脈閉塞（矢印部）



血管内治療後

万が一、脳卒中になっても・・・

脳卒中は、いきなり運悪く発症するわけではなく、様々な生活習慣病（高血圧、糖尿病、肥満など）や習慣（喫煙、多量飲酒、過食、運動不足、睡眠不足など）、心房細動、慢性腎臓病、老化などが元にあり、その行きつく先として生じることがほとんどです。

皆さんや大切なご家族が、ある日突然に脳卒中になられても、神経内視鏡手術（左上図）や血管内治療（左下図）などの早期治療・看護・リハビリ・生活指導・退院支援等によって、少しでも回復され、その後もできるだけ有意義な人生を送っていただけますよう、医療チーム全体でお手伝いさせて頂きます。

お産は、より安心・安全な当院で！

周産期母子医療センター産科部門がリニューアル

病棟に母体胎児集中治療管理室（MFICU）3床、ハイリスク分娩室1室を配置し、のんびり過ごせるシャワー付個室やコミュニティの場でもある授乳室を備えました。落ち着ける空間で、育児をスタートしながら「母になる過程」をバックアップします。

シャワー付き個室

授乳室・搾乳室

Baby Friendly Hospital

当院は赤ちゃんにやさしい病院(BFH)として認定されています！

生まれてすぐの赤ちゃんの抱っこからはじまり、お母さんの体調に合わせて完全母子同室や乳頭マッサージの援助や指導などを実施しています。お母さんの想いに添いながら母乳育児を応援しています。

お母さんからのメッセージ

- 辛い時、スタッフの方々、他の妊婦の仲間たち、たくさんの人に支えられました。
- 授乳に苦戦していた時、みなさんが一緒に考えて下さり、心強かったです。
- みなさんの温かい心配りに大変助けられました。ここで産んでよかった！

産婦人科部長　高橋医師より

出産年齢の高齢化や不妊治療の進歩によりハイリスク妊娠が増加しています。
一方、順調な経過の妊婦でも急変する危険性もあります。
当院は地域周産期センターとしてハイリスク妊娠の紹介や緊急母体搬送をすべて受け入れ、安心・安全なお産を目指し、日々努力しております。

産婦人科　高橋弘幸

新型コロナとインフルエンザ ～感染を疑ったら～

今冬は新型コロナとインフルエンザウイルス感染症の流行が懸念されます。

新型コロナウイルスの場合、表に示したような症状が4日～1週間以上続くことが特徴ですので、帰国者・接触者相談センターやかかりつけ医、地域の相談窓口等にあらかじめ電話でご相談ください。

一方、インフルエンザの場合には、38℃以上の高熱や頭痛、関節痛・筋肉痛などが現れます。こういった場合は、近所のクリニックやかかりつけ医で診察を受けて下さい。

どちらも当てはまる場合や、判断に迷うという場合は、新型コロナウイルス感染を念頭に対応することをおすすめします。

	新型コロナウイルス	インフルエンザウイルス
おもな症状	発熱、乾いた咳、倦怠感、頭痛、咽頭痛、味覚・嗅覚障害など	高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、倦怠感、咽頭痛、咳など
感染経路	飛沫（接触、エアロゾル感染も）	飛沫
潜伏期間	1～14日	1～2日
症状の持続期間	2～3週	3～7日
無症状者からの感染	数%～60%の報告。無症状でも感染力が強い。	10%程度。無症状者のウイルス排泄量は少ない。
致死率	3～5%	0.1%以下

第2回 中央病院を支えるスタッフ 看護助手

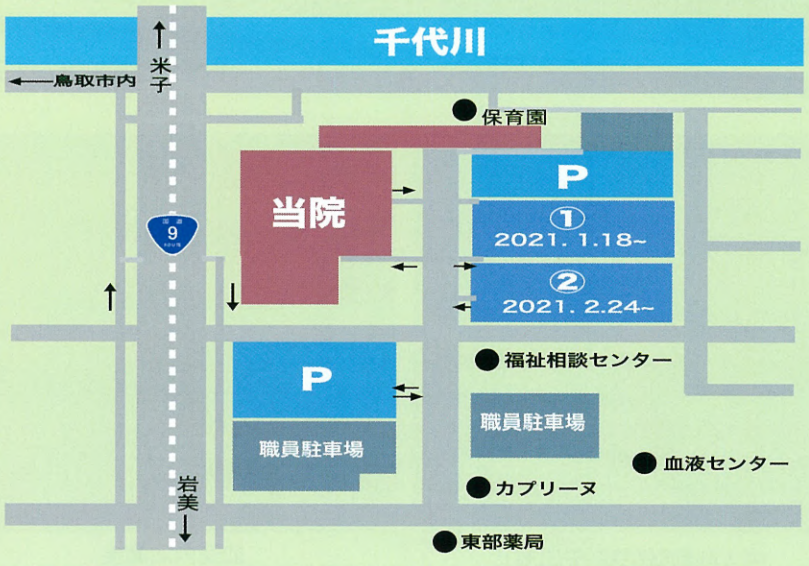
病棟内を中心に、患者さんの身のまわりの世話や細かな作業をこなしています。医療行為は行いませんが、環境整備・食事援助・清潔援助・移動援助と、非常に多岐に渡っています。

患者さんの近くに寄り添いながら、医療・介護の現場を支えています。

現在、看護助手さんを募集しています。

鳥取県立中央病院総務課人事企画担当まで（詳細は当院ホームページにてご確認下さい）。

駐車場が広くなります

駐車場の混雑で大変ご迷惑をおかけしています。

現在、病院北側駐車場の拡張工事中です、一部は2021年1月18日に、残りは同年2月24日に完成予定です。